

写真展

THINK
NOW
ハンセン病

ハンセン病を考えることは、 人間を考えること。

～富永夏子 写真展～

●期間

2016年7月4日(月)～8月27日(土)

午前9時～午後8時30分

(第2・4土曜は午後5時まで、第1・3土曜日、日曜・祝日は休館)

●会場

尼崎市立地域総合センター神崎

(尼崎市神崎町14-22)



- 入場無料、記念品もあります。
- 会場の都合上、階段や2階にも展示します。

サポートが必要な方は、お申し付け下さい。

主催：尼崎市立地域総合センター神崎 企画協力：公益財団法人日本財団



車いす等で、駐車場をご利用の方は、事前にご連絡下さい。



「写真を見て自分の心の中にも

差別の感情があるのを自覚しました。」

福岡で開催された写真展に来た方は、こう語ったそうです。「知らないこと」が偏見を生み、差別を生む。日本では学校や職場で教わる機会がない、多くの「現実」。

「知らなくても、生きていける」確かにそうかもしれませんが。

でも、だれかが「知ること」で生きていける、生きやすくなる人たちもいます。昨年、東京など3都市で開催され、反響を呼んだ写真展「ハンセン病を考えることは、人間を考えること。」がこの夏、尼崎へ。



私の母は、 ハンセン病 でした。

THINK
NOW
ハンセン病

講演会



●とき

2016年8月27日(土)

午後1時30分～3時

●ところ

尼崎市立

地域総合センター神崎

●スピーカー **黄光男**(ファン クアンナム)さん

1歳の時、母と姉がハンセン病を発病、療養所に隔離され、福祉施設で育つ。隔離政策によって引き裂かれる家族。その経験から、音楽によってハンセン病問題の理解と解決をめざす活動始める。「ハンセン病元患者家族の集団訴訟」原告団副団長。現在は尼崎市役所で勤務。

家族を引き裂かれた思い、親のことを話せなかった思い。

「ハンセン病」に対する根強い差別の現実、強制隔離のもと

「らい予防法」がもたらした現実を、いまだ多くの人は知らない。

ヘイトスピーチ、結婚・就職差別、いじめなど、日本はまだまだ「平和」じゃない。

「ハンセン病」とその家族の思いを知る。誰ひとり偏見と差別で苦しむことがない、そんな尼崎をつくるために。

●申込み先着80人、参加無料

> 電話・ファクシミリ・メール、いずれかで「名前、連絡先(電話もしくはメールアドレス)、参加人数、所属(任意)」をお申込み下さい。なお、空きがあれば当日参加も可能です。

●**手話通訳**などを希望される方は、**8月10日(水)**までにご連絡下さい。

【申込み・問合せ】 尼崎市立地域総合センター神崎

電話・ファクシミリ **06-6499-3500**(平日9時～21時、第2・4土曜日9時～17時)

メール **qqku9sw9k@clock.ocn.ne.jp**

